

写真による 豊中の”むし”調べ2009



2010年3月

NPO法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21 自然部会

目 次

1. はじめに	2
2. 調査について	3
(1) 調査の目的	
(2) 調査要領	
(3) 関連行事等	
3. 集計と結果	6
4. 今後の課題	7
資料 1	8
調査協力者の感想	11
「豊中のむし」写真展を見て ~来場者の感想~	14
5. おわりに	15
資料 2	16

1. はじめに

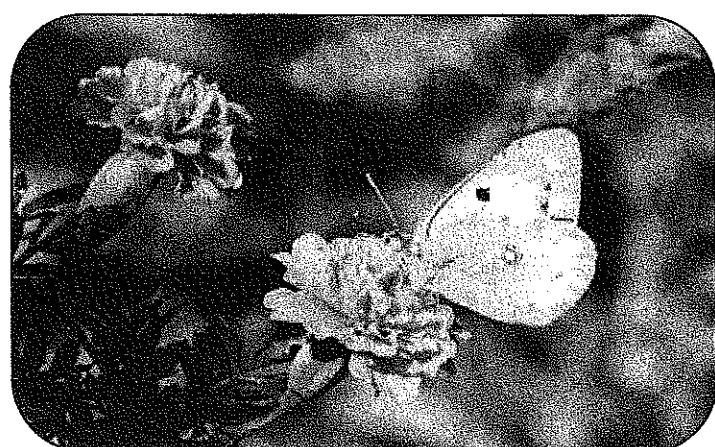
「豊中にどれだけ昆虫がいたのか、きちんとしたものをぜひ残しておかなければいけない」、と21世紀に入った段階で部会で話し合ったことを思い出します。どのような方法で残すかということで議論が続き、ようやく今年度になって「写真による豊中の“むし”調べ」を市民のみなさまに呼び掛けることにより、その実行にこぎつけました。

ひとつには、デジタルカメラの性能がここ数年著しくアップして、細かなピント合わせが容易で、露出など気にしなくても撮れるということも追い風でした。また、いつ撮影したかというデータなども自動的にカメラに記録してくれるのも、わずらわしさを半減してくれました。

しかし写真は専門的、学術的には価値が低いといわれます。それでも私たちはこの調査を評価したいと思います。それは市民調査員に参加したみなさまや、“むし”的写真展を見られた多くの市民の方々から、「今まであまり関心もなく注意して見なかつた“むし”について目を向けるようになった」「“むし”的美しさや構造の細かさに驚き、ますます“むし”に興味を持つきっかけとなった」と多くの声が寄せられました。

自然部会の長年の課題であつた豊中の虫についての取り組みの一環として、多くの種類を発見するとともに、“むし”を映像として記録することができました。このようにして多くの市民が力をあわせるとこんなにも多くの“むし”が生存していることがわかるという、この経験と結果を後の世代につたえることができたことを参加してくださった皆さんと喜びたいと思います。

そして、この調査を第一歩として、これからも生き物の記録集積と保全のための活用を続けたいと思います。



2. 調査について

(1) 調査の目的

平成 20 年に生物多様性基本法が制定され、市町村でも生物多様性地方戦略の作成が求められています。私たちは、その戦略づくりの基礎資料として、市域の生物の分布情報の収集・整理が大切であると考えています。

その一環として、身の回りに生きる昆虫をはじめとする“むし”的写真を撮ることで、市民が生き物に親しむきっかけをつくり、あわせてその撮影日・場所をセットで情報を集積することにより、市内の生物の生息状況の把握とデータベース化にむけた資料とすることを目的とします。

ここでは、対象を昆虫と限定せず、市民が「むし」と認識した動物全般をとし、“むし”と表記します。

(2) 調査要領

2009 年広報とよなか 3 月号への掲載とチラシにより、市民調査員を募集しました。

(資料編参照)

①写真撮影期間

2009 年 4 月～10 月

②撮影場所

豊中市全域

③撮影対象

身近な“むし”（昆虫に限定せず、市民が「むし」と認識する動物）

野生個体（飼育個体は対象外）

④記録収集方法

撮影写真（データ・プリント）に撮影場所（町・丁目）、日時、撮影者等記入した調査票を添付してアジェンダ事務局に提出。

⑤提出期間

第 1 期（4 月～6 月）第 2 期（7 月～8 月）、第 3 期（9 月～10 月）

⑥集計整理方法

提出された写真の同定（種の判定）を行い、15 のグループ（昆虫では主な目、その他では主な綱のカテゴリー）に分類した。種までの同定が困難な写真については、「○○の仲間」として扱いました。

また撮影地点を町単位で地域区分し、町を千里地区、北部地区、中北部地区、東部地区、中西部地区、南部地区の 6 地区にまとめて整理した。

(3) 関連行事等

①調査説明会と現地観察・撮影会

4月18日(土)13:00～16:30 参加者数22人

中央公民館で調査の主旨や方法、記録提出等についての説明を行い、その後、豊島公園で観察と撮影会を行いました。



②"むし"写真撮影学習会

6月12日(金)10:00～12:00 参加者24人

講師：伊藤ふくおさん

島熊山緑地において、"むし"写真撮影の要領の実地講習を受けました。



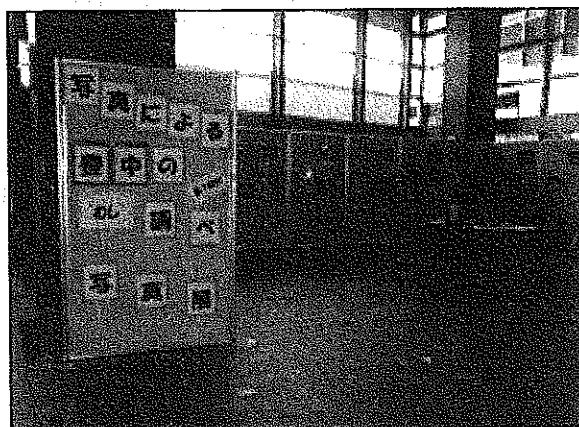
コマユバチ幼虫に寄生されたタケカレハ幼虫

③豊中の“むし”写真展

10月19日(月)～23日(金) 来場者 513人

市役所第2庁舎1階ロビーにおいて、第1期で市民が撮影した写真から約80枚を選び、写真展を行い、本調査活動の紹介と豊中の“むし”的紹介を行いました。

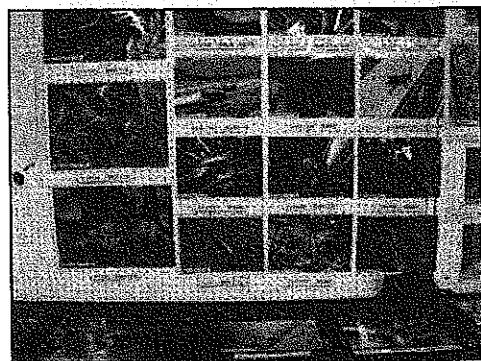
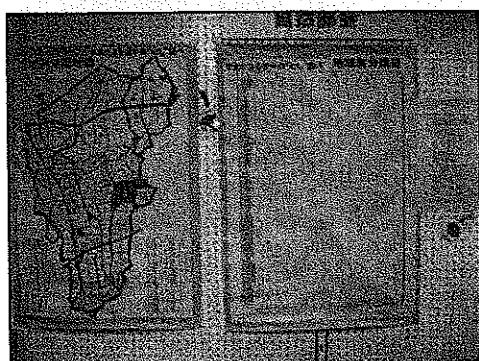
来場者の方からも色々なメッセージをいただきました。(資料編に入っています)



④環境展2009 出展

12月12日(金)～13日(土)

約90枚の写真展示とデータ集計の中間報告を行いました。



3. 集計と結果

調査の結果、合計 1578 個体、316 種の記録が集まりました。

「グループ」別ではチョウ・ガのグループが 76 種 563 個体と一番多くの写真が集まり、コウチュウのグループ 65 種 201 個体、カメムシのグループ 39 種 151 個体などが多いものでした。

これらは、チョウやコウチュウ（コガネムシの仲間）のように、大きくて親しみのあるもの、ガ（幼虫を含む）やカメムシ類のようにあまり動かず、写真撮影が容易なものが多く集まりました。

地区別では、千里地区が 571 個体、東部地区が 485 個体、北部地区が 270 個体、中北部地区が 182 個体、中西部地区が 70 個体、南部地区が 0 個体でした。

これは、自然豊かな島熊山緑地や千里緑地が千里地区、服部緑地が東地区に含まれ、市域の北側と東側に良好な自然があること、また調査員の多くがその地区の住民であったことによると考えられます。

グループ別集計表

グループ	チョウガ	トンボ	バタ	カマキリ	カメムシ	ハエアブ	ハチ	コウチュウ	その他昆蟲	矢	マキガイ	甲殻	多足類	両生爬虫	その他	計
種類数	76	20	22	3	39	23	29	65	5	16	3	2	3	8	2	316
個体数	563	117	107	30	151	108	101	201	20	109	19	6	6	27	13	1578

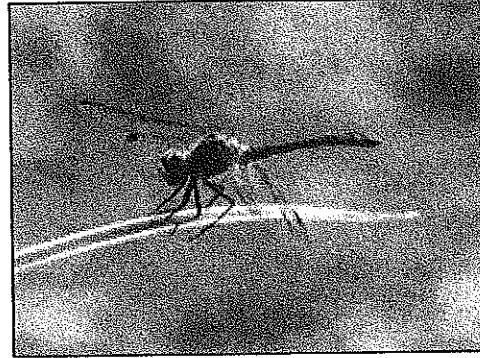
地区別・グループ別集計表

地区番号	地域	地区数	チョウガ	トンボ	バタ	カマキリ	カメムシ	ハエアブ	ハチ	コウチュウ	その他昆蟲	矢	マキガイ	甲殻	多足類	両生爬虫	その他	計
①	千里地区	5	180	32	39	11	61	45	34	89	14	41	8	1	2	6	8	571
②	北部地区	12	109	35	12	5	28	18	17	26	2	10	3	1	0	2	2	270
③	中北部地区	23	88	20	6	2	13	13	16	9	0	11	1	1	0	2	0	182
④	東部地区	11	152	27	46	11	47	22	30	70	4	45	5	2	4	17	3	485
⑤	中西部地区	26	34	3	4	1	2	10	4	7	0	2	2	1	0	0	0	70
⑥	南部地区	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地区・写真数		99	563	117	107	30	151	108	101	201	20	109	19	6	6	27	13	1578

これらの中には、コマユバチの幼虫に寄生されたタケカレハの幼虫のように、興味深い性態をとらえた写真や、大阪府府下での分布が非常に限られているベニイトトンボ（大阪府絶滅危惧II類）やナニワトンボ（大阪府準絶滅危惧）、豊中市内ではほとんど見られなくなつたトノサマガエルの写真も寄せられました。



ベニイトトンボ



ナニワトンボ

寄せられた写真は、その多くが発見されたその場での撮影写真であるため、スケール等がなく、大きさが不明であったり、動きが早いものは撮影が困難でピントが合わせられない、チョウなどのように翅の表裏の写真がないと同定が困難である等の理由で種名まで同定できず、「〇〇の仲間」とせざるを得ない写真も多くありました。

4. 今後の課題

今回の調査では、南部地区をはじめ、市域南方の写真がほとんど寄せられなかつたため、調査密度に大きな差が出たことは否めない。その理由は先にあげたとおりであるが、市街地や小さな公園でも“むし”は必ず生息しているため、今後は南方地区での情報を集める必要があります。

また、精度の高く、種までの同定が可能な写真を撮るためにテクニックを高めることも必要でしょう。

写真による豊中のむし調べ要項

2009.4.18

1. 趣旨

豊中の昆虫の調査を早くしておかなければと言う声はずいぶん前からあがっていた。しかし、なかなか調査にまでいたらなかった。その間にカメラの機能発達普及は目覚ましく、だれでも簡単にきれいな写真を撮ることができるようにになった。十分とはいえないまでもこの機能を利用し、多くの人の参加によって、写真による“むし”的調査を行いたい。

2 目的

- カメラを通して豊中の“むし”を発見する。
- “むし”を通して豊中の自然に親しむ。
- 豊中の“むし”マップを作る。
- 豊中の“むし”的大まかな全体像をつかむ。

3 期間

2009年4月～10月

提出締め切り

第1期	4月～6月	7月10日(金)
第2期	7月～8月	9月11日(金)
第3期	9月～10月	11月13日(金)

3 撮影場所

豊中市域

4 撮影対象

身近な“むし”（昆虫に限定しない）

自宅などで飼育した物は対象外

撮影した写真には撮影場所（町・丁目）日時 撮影者名を記入の事。

5 まとめ

期間を通して期別、種別に選定しまとめる。

豊中の“むし”マップをつくる

同定困難なものは博物館などに依頼する。

6 5までの流れ

説明会 ⇒ 第1期撮影 ⇒ 写真選定 ⇒ 提出

↓ (中間報告会) 情報交換など

第2期撮影 ⇒ 写真選定 ⇒ 提出

↓

第3期撮影 ⇒ 写真選定 ⇒ 提出

↓

まとめ作業 (不明種については同定依頼)

↓

まとめ・豊中の“むし”マップ作成

↓

写真による豊中の“むし”報告会

7 配布物

- むし調べ要項（本紙）
- 写真データ記録用紙
- プリント以外で送付される際の注意（データ提出要項）
- 調査員証
- 参考資料

※ 写真撮影アドバイス 5月19日(島熊山 少年文化館駐車場10:00)

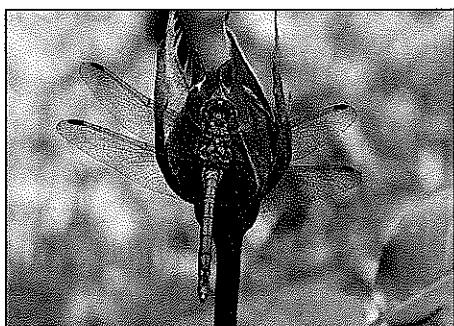
雨で6月12日に延期

写真による豊中の“むし”調べ2009

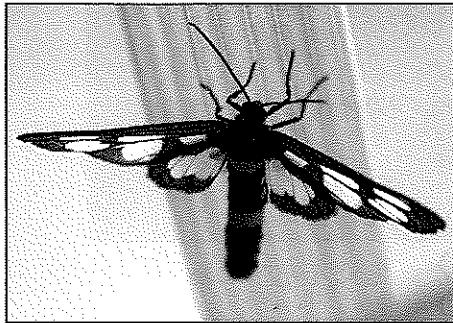
代表的なむし写真



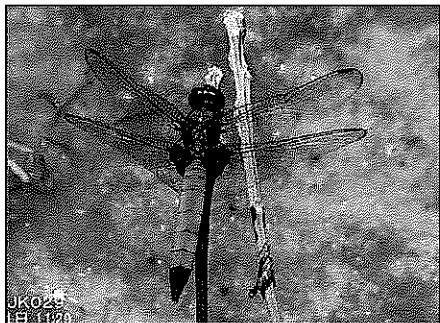
タケカレハ幼虫 新千里西町(島熊山緑地)



ヨコヅナサシガメ 東豊中町(二ノ切池公園)



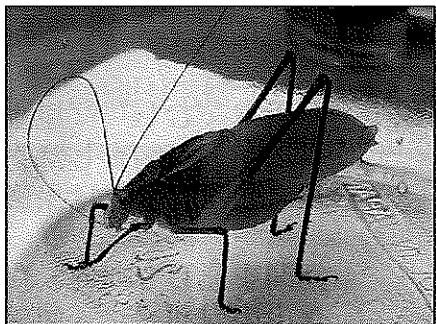
カノコガ 新千里西町(島熊山緑地)



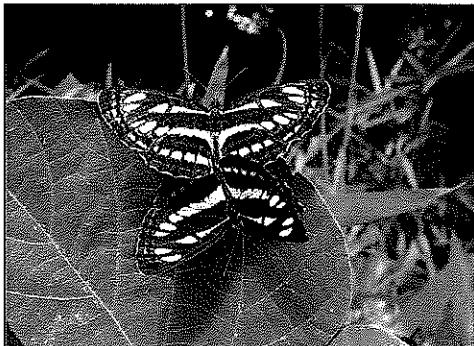
オオシオカラトンボ 東豊中町(二ノ切池公園)



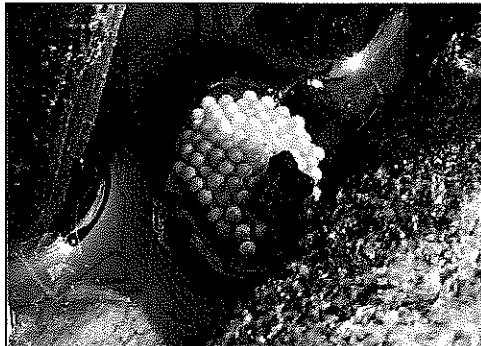
ホタルガ 新千里西町(千里緑地)



クツワムシ 東泉丘3丁目



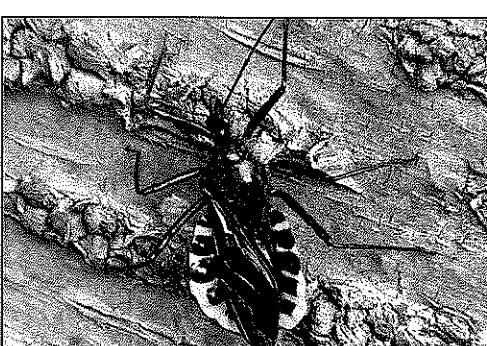
コミスジ 新千里西町(千里緑地)



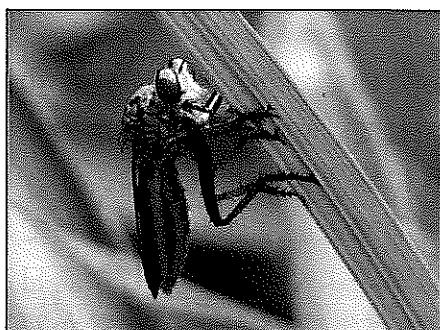
コオイムシ 緑丘(島熊山ビオトープ池)



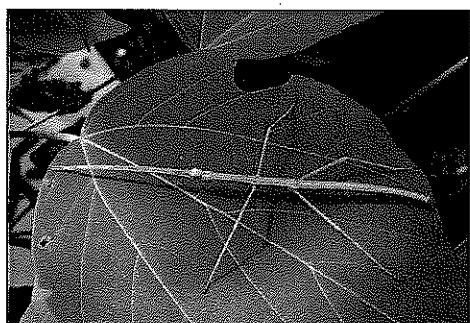
クロコノマチョウ 新千里西町(千里緑地)



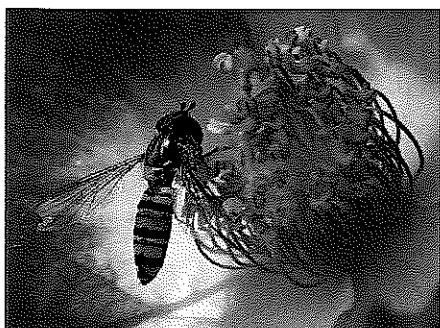
マイコアカネ 東豊中町(二ノ切池公園)



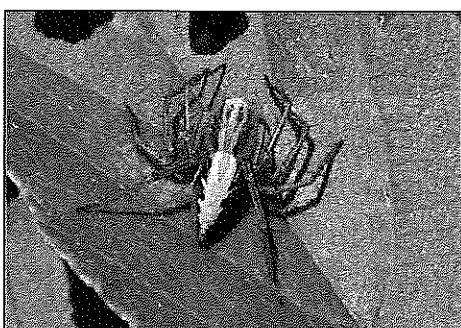
アオメアブ 新千里西町(千里緑地)



ナナフシモドキ 新千里西町(島熊山緑地)



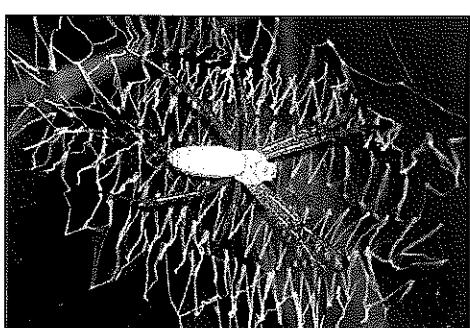
ホソヒラタアブ 東豊中町(ニノ切池公園)



ササグモ 新千里西町(千里緑地)



ガの仲間 春日町(千里川)



ナガコガネグモ 東泉丘1丁目



コアオハナムグリ 東泉丘2丁目



ヒトスジマイマイ 東泉丘4丁目



タマムシ 春日町5丁目



トノサマガエル 東泉丘1丁目

調査協力者の感想

◆私自身、あまり虫（けむし、蛾等）は好きではなかったのですが、調査参加で虫達をじっくり観察できるようになりました。今回の調査に参加して、虫の世界の広さや植物との面白い係わり合いとか、生態系を教えて頂きその奥深さに驚きました。

大変多くの虫の種類がいて、私の写した虫はほんの一部で、恥ずかしく反省しております。写真で写す瞬間の難しさときれいに撮れた時の達成感がよくわかりました。日ごろ市民農園で畠仕事をしています。が、虫のことは無頓着でした。写す時、なかなか写真の枠中に虫が入ってくれず、構えているうちに画面から出でてしまうのが毎回でした。

三期に分けて調査しましたが、春（4～6月）夏（7～8月）秋（9～10月）の内、やはり春の虫が多いと思いました。写す時間にも関係しますが、夏と秋はあまり虫が見られず、写真を撮らなかったよりも撮れなかつたが本音かなと思いました。

（東泉丘 伊藤陽一郎）

◆「とりあえず一枚撮る」と実技講習会で教えて頂いてから、撮り逃がすことが少なくなりました。それまでは、一番良い状態で撮ろうとカメラを構えてもたもたしているうちに相手がいなくなっていることが多かったです。まず一枚撮り、その後で近くに寄りゆっくり良い角度で撮る方法でヒカゲチョウ、ホシミスジ、ホタルガなどをカメラに収めることができました。レンズを通して虫たちの生活をのぞき、その美しさや不思議を知る今回の調査は、同じこの豊中の地に彼らも一緒に生きているんだなあと実感できる心温まるものでした。

（北緑丘 易 信子）

◆散歩がてらに自宅近辺の遊歩道やあぜ道、公園を歩きながら花に集まつてくる虫を見つけてカメラに収めました。日暮れにチョウチョが葉の陰に止まっていて、そのまま羽を休めて一夜を明かすことを知りました。アゲハチョウは何度も見かけましたが、なかなか花に止まってくれないので撮影が困難でした。夏の夜に鳴いているクツワムシを見つけて感激しました。普段はあまり散歩もしなかつたので、虫調査はよい運動になりました。

（東泉丘 桑島淳二）

◆(1)何度かカメラを持って市内を歩きましたが、予想以上に虫が少ないといました。また、見つかっても飛んでいたり遠かったり、写真に撮れない場合もあり、写真はあまり撮れませんでした。小さな虫も多く、虫の写真はむずかしいと思いました。

(2)説明会に欠席したこともあり、調査の目的や虫の範囲など、理解が十分でなかったこと、最終的にどのようにまとめるのか、自分自身イメージが把握できていなかったことなど、反省すべき点が多くあった調査でした。

（上野東 斎藤 明）

◆もう少し若い頃より自然に感じるものがあり、関心を持っていました。昨年、桑島さんに感化されて写真を撮り始めました。ケイタイのカメラが手軽で、撮り始めると楽しくまた「写真展」を見ると、この虫達がいつまでも豊中で見られるように…と改めて思うようになりました。今年も虫達を撮れるのを楽しみにしています。 （東泉丘 鈴木美鈴）

◆生活圏の中で、たくさんの生き物と出会い、話をしながらシャッターを押しました。短

い期間でしたが、今まで気にもとめていなかった、経験したことのない時候の移り変わりを感じることが出来ました。今なお、その時のシャッターの感触が蘇ります。ありがとうございました。
(東泉丘 松谷キミ子)

◆身近にどんな昆虫が棲んでいるのだろうと思って、調査員になりました。しかし4月～10月までの調査期間で活動したのは前半の7月くらいまでで、満足に調査できなかったことは本当に申し訳なく思っています。

調査の時に感じたことは、昆虫の写真が非常に難しいことです。対象が幼虫などであれば、写真がブレないですが、飛んでいるチョウや木に止まっているセミなどはコンパクトデジカメでは歯が立ちません。実際にはカメラで撮影した昆虫以外にも、確認された昆虫がいるにもかかわらず、そのデータが記録されないのはちょっとどうかなと思いました。上手に撮らなければと意識過剰になりすぎだったかもしれません。同定される方には酷ですが、とりあえずシャッターをきるという気持ちでやれば良かったのでしょうか？

(服部西町 松田和重)

◆千里川沿いのカメラ散策がてら飛来する鳥の撮影をしていましたが、今回のむし調べに参加して、今まで気付かなかった小さな“むし”たちに出会うことができました。同じ「カムシ」でも、いろいろな模様や色をした種類がいることを知りました。「タマムシ」を発見した時は、その華麗な色に幼い頃に感激して見た記憶が蘇りました。少し弱っていたし、タマムシが生息しているとは思えませんので、よそから持ってこられたのが逃げてきたのでしょうか？それにしても、昔に比べたら、トンボにしても種類や数が減ったように感じます。自然が減ってからでは遅いのですが、自然の有り難さや人間にとってもその大きさをつくづく感じるこの頃です。
(春日町 宮田 健)

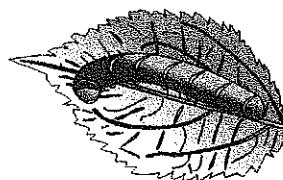
◆今回の調査は市民を対象にしたものであり、扱い易いデジカメを利用しての調査は、取り掛かりやすく生き物に対して興味を呼び起こし、引いては自然環境に対して関心を持つもらえるという意味でも、大変良い企画であると思った。

近くの公園や原っぱを回るのだが、チョウ、トンボにバッタ類が多い。チョウトンボを何回も見かけたのだが、いつもひらひら飛んでるのでうまく写っていないくて、あきらめてまた、今度にしようなどと思っているうちに完全に姿を消してしまった。ちょっと執念が足りなかった。

甲虫類など沢山（自分にとって）撮れたが、これを図鑑を見ながら自分なりに同定していると、種類の多さや個体差で識別が難しくあれこれ悩むが、それが結構楽しいものであった。セミについては、ミンミン、ニイニイ、ツクツク、アブラ、クマゼミを、中には抜け殻を撮ったのもあるが、ヒグラシはやはり数が少なく姿を見ることは出来なかった。

とにかく、虫との出会いの為には常にカメラを携帯していれば良いのだが、折角のチャンスを逃がした例は何回かあった。でも常にカメラを持っているのは邪魔になるので難しい。長期間の調査ではあったが、自分はもう少し突っ込みが足りなかったなーと反省している。その分、豊中南部の調査に参加して、珍しい虫を是非見つけたいものだと思っている。

(上新田 三宅史郎)



◆昨年4月からの半年余り、虫とつきあうことができ、楽しい時間を過ごせました。もともと散歩のお供にカメラをリュックに入れ、何かあれば記録するという習慣がありましたので、虫調べもその延長ととらえて参加しました。そこでいくつかの発見?をしました。嬉しかったこと

□カブトムシを見つけたこと

もう豊中で見つけるのは無理かな、と思っていましたが樅の木公園でコナラでしょうか樹液を流している木があり、始めは小型の甲虫くらいでしたが、6月の終わりから7月になって、カブトムシのオス、メスだけでなくカナブンが集まっているのを見かけ感激しました。

□イナゴとの出会い

こちらは、まだまだたくさんいるだろうとタカをくくっていましたが、8~9月にかけ、何度も稲のある所へ足を運びましたが、なかなか姿を認めることができず、焦っていました。4度目の挑戦で、ようやく2匹を見つけた時は、旧友に会ったような懐かしさを感じました。

気になったこと

イナゴもそうですが、いくらでもいると思っていたのに、とうとう期間中に見つけられなかったのがカタツムリでした。もちろん、6月は雨上がりにカタツムリがいそうな所を5~6回巡回しましたが、ダメでした。厳密には虫ではありませんが、大いに気になるところです。

子どもの頃には、身近にいくらでもいた虫たちが、いつの間にか激減しているようで半年あれば500種位の虫を見つけるのは苦もないこと、と思っていましたが、名前の分からぬるものや、写真がうまく撮れなかったものを含めても、たかだか200種に達しなかったのは、期待外れでした。

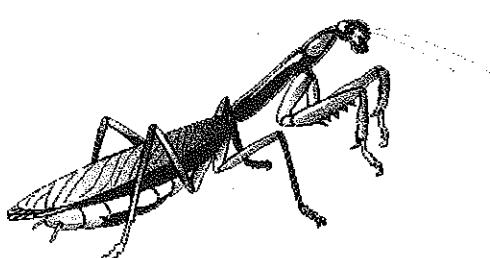
勉強になったこと

素人の私には、虫の生態がよく分かりませんので、見つけるのに苦労していただけなのかもしれません。半年余りの体験の中で少しずつ、虫の棲みかがどんな場所か、というのが分かってきたように思えますので、これからも継続してカメラでの「虫の採集」をしてみようと思っています。

お願い

豊中でどのくらいの虫が見つかったのか、図表を作成していただきたい。また、来年調査数が少なかった豊中南部を改めて調査することですが、豊中全域についても来年も調査を継続し、より正確な実態調査記録を作っていただきたい。

(上新田 吉見清之)



「豊中のむし」写真展を見て ~来場者の感想~

○楽しく拝見しました。それにしても昆虫は25年くらいの間にずいぶん減りました。普段でも季節ごとに見かける虫たちの姿に感じることが少なくなり、環境の変化はここまで進んだのだと複雑な思いです。

これから豊中の人口も特に増えることもないでしょうが、自然と共生した社会を、なんとか少しでも良くしたいと思います。

○豊中にこれほど多様で美しい虫たちがいることに感心しました。カメムシの仲間がいろいろあるんですね。緑のカメムシしか気付かなかったです。写真でピントが当っているので、チョウや虫たちの節々や細かい毛先まで見ることができました。

○(1)家の屏をはい回っていた得体の知れない生き物が何なのか、長い間疑問に思っていました。今日の展示を見てコウガイビルという名前のヒルの一種だと知り、のどに刺さったトゲが取れたような気持ちです。

(2)子どもの頃、クビキリバッタの首を草にかませてとったことを反省をもってまたなつかしく振り返っています。

(3)ヤモリが時々夜に鳴いているのを聞いてきましたが、最近鳴き声を聞かなくなりました。どこへ行ったのでしょうか？

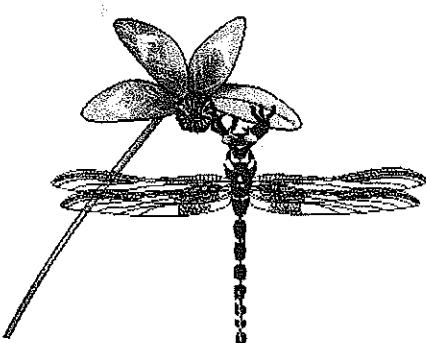
(4)虫に関する疑問を多く持っていますが、その疑問を少しずつ解決していきたい。

○今年調査員になり、初めての写真展に来ました。花や生物にいやされていますが、大きくきれいな色で展示された写真を見ると、一層関心が湧き、これからも身近な生物を見たら、撮ったりしていこうと思いました。

○豊中のむし写真展を見て昔を思い出しました。豊中生まれ、豊中育ちですが、最近の町の変わりようにこの町がどのようになるのか心配です。まだ東泉丘付近には自然が残っているように見えます。どうぞそのまま残して下さい。

○こんなにもたくさんの虫にびっくりしました。虫大好きな子どもたちと一緒にいて、これ何という虫？とイラガ（毛虫）を持ってきたりしています。害のない虫ならホッとしています。

○色々な昆虫や色々な生き物、少年のころの田んぼや山川で遊んだことを思い出し、楽しく観賞させてもらいました。ありがとう。



5. おわりに

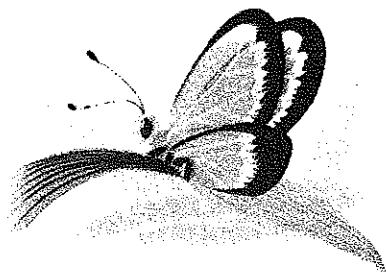
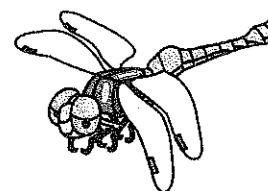
4月下旬から10月末までの約半年に届いた“むし”写真は1578枚。実際に撮影した枚数はこの2倍か3倍になると思われます。デジタルカメラの良い点は不要なものを消去してしまえることです。これがフィルムであつたらどれだけ費用がかさんだことだろうと思うと冷汗ものですし、これだけ多くの点数が集まらなかっただろうと思います。

集まった写真を見ると、デジタルデータとして提出されたものが3/4、プリントで提出されたものが1/4で、パソコンを駆使される方が多いということがわかりました。

撮影された“むし”で多いのは、当然のことながら目につきやすいもの。そして動きが少なく撮影しやすいものが上位をしめています。それにしてもチョウ・ガの仲間だけでも79種類、カブトムシの仲間も61種類、カメムシの仲間39種類など私たちには想像がつかない数が集まりました。

地域別にはばらつきが多く、南部の写真がほとんどなかつたことが大変惜しまれます。これは企画の段階で考慮すべきであったと反省されます。この点は次年度に引き継いで重点的に調査を行う企画を考えたいと思います。

いずれにしても、約6ヶ月間撮影に編集や同定に苦労していただいたみなさんに感謝申しあげます。



身近な生き物しらべ 2009 「写真による豊中の“むし”調べ」 データ提出要領

- * デジカメデータや調査票、フィルム写真は下記の方法を用いて提出してください。
- * 提出頂いたデータ、CD、プリント等は返却しませんので、各自でも保存しておいてください。

デジカメ写真の場合

1～3のいずれかの方法で写真データおよび調査票を必ず提出してください。

1 ファイル転送サービスで写真ファイルをアジェンダ事務局に転送

- * 「おくりん坊」「宅ふあいる便」「ファイルバンク」等のファイル転送サービスを用いて、写真データ・調査票をアジェンダ事務局に転送してください。
参考：おくりん坊 <http://okurin.bitpark.co.jp/>

2 データ保存CDをアジェンダ事務局に持ち込み・郵送

- * 写真データと調査票データをCDに保存し、アジェンダ事務局に持ち込み、または郵送してください。CD背面には調査者名を記入してください。
- * 調査票データを保存できない場合は、必ず紙の調査票に記入して同時に提出してください。
- * 提出CD類は返却いたしませんので、データ類は各自でも保存しておいてください。

3 記録メディアまたはデジカメ本体をアジェンダ事務局に持ち込み、その場で保存

- * SDカード等の記録メディアと調査票をアジェンダ事務局に持ち込めば、事務局にてその場でデータを保存します。(メディア、本体とも事務局で預かり置きはいたしません)

フィルム写真の場合

写真のほか、調査票も必ず添付してください。

L版にプリントし、アジェンダ事務局に持ち込み・郵送

- * プリントした写真と調査票をアジェンダ事務局に持ち込み、または郵送してください。それぞれの写真の裏には撮影者名、写真番号、撮影場所を記入してください。

《提出期間》

- * 必ず提出期間にお出し下さい。

- * 持ち込みの場合は、いずれも 10:00～16:00(12:00～13:00 を除く)にお願いします。

- ・第1回目：7月6日（月）～7月10日（金）
- ・第2回目：9月7日（月）～9月11日（金）
- ・第3回目：11月9日（月）～11月13日（金）

(データ提出先)

NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 事務局

〒561-0804 豊中市曾根南町 1-4-3 環境情報サロン内

TEL : 06-6863-8792 FAX : 06-6863-8734

Eメール : ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp

URL : <http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>

参考文献

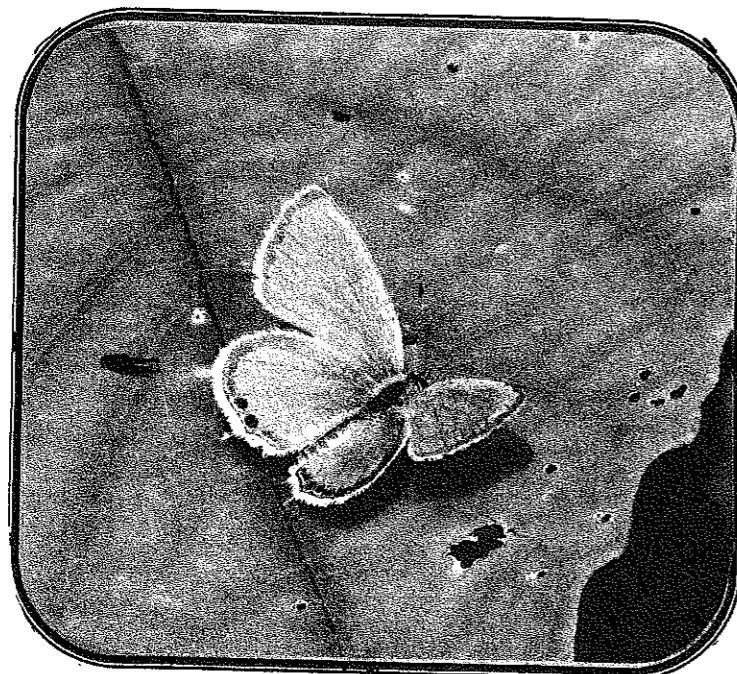
- ・改定新版 世界文化生物大図鑑 昆虫 1 世界文化社
- ・原色日本昆虫図鑑 (上) 保育社
- ・原色日本昆虫図鑑 (下) 保育社
- ・検索入門 チョウ ① 保育社
- ・検索入門 チョウ ② 保育社
- ・検索入門 セミ・バッタ 保育社
- ・学習科学図鑑 昆虫 1 学研
- ・学習科学図鑑 昆虫 2 学研
- ・新訂版学研の図鑑 昆虫 学研
- ・昆虫の図鑑 小学館
- ・日本のチョウ 小学館
- ・野外ハンドブック 1 2 甲虫 山と渓谷社
- ・原色昆虫図鑑 (上) 北隆館
- ・原色昆虫図鑑 (中) 北隆館
- ・原色昆虫図鑑 (下) 北隆館
- ・原色昆虫大図鑑 1 北隆館
- ・原色昆虫大図鑑 2 北隆館
- ・原色昆虫大図鑑 3 北隆館
- ・コンパクト原色昆虫図鑑Ⅱ 北隆館
- ・身近な昆虫ポケット図鑑 日本昆虫協会
- ・原色日本蜘蛛類大図鑑 保育社
- ・フィールドガイド豊中 豊中市教育委員会

写真による豊中の“むし”調べ 2009 確認された種

- ・ 昆虫では主な目、その他では主な綱のカテゴリーを 15 のグループに分類
- ・ 種までの確認が困難な写真是「〇〇の仲間」と記述
- ・ 種数に加えずに「〇〇の仲間」とグループの最後に記入しているものは、同一かもしれない種が加えられているからです

グループ別集計表

グループ名	種類数	個体数
チョウ・ガ	76	563
トンボ	20	117
バッタ・コオロギ	22	107
カマキリ	3	30
カメムシ・セミ	39	151
ハエ・アブ	23	108
ハチ	29	101
コウチュウ	65	201
その他の昆虫	5	20
クモ	16	109
マキガイ	3	19
甲殻類	2	6
多足類	3	6
両性・爬虫類	8	27
その他	2	13
計	316	1578



1 アオイラガ	37 セスジスズメ	74 ユウマダラエダシャク	3 オンブバッタ
2 アオスジアゲハ	38 タケカレハ	75 ルリシジミ	4 カマドウマ
3 アカタテハ	39 チャバネセセリ	76 ルリタテハ	5 カヤキリ
4 アカマダラメイガ	40 チャバネフユエダシャク	イラガ科の仲間	6 キリギリス
5 アゲハチョウ	41 チャノミガ	カレハガ科の仲間	7 クサキリ
6 アサギマダラ	42 ツバメエダシャク	ヤママユガの仲間	8 クツワムシ
7 イチモンジセセリ	43 ツバメシジミ		9 クビキリギス
8 ウスキツバメエダシャク	44 ツマキシャチホコ		10 ケラ
9 ウスバツバメ	45 ツマキチョウ		11 コバネイナゴ
10 ウメエダシャク	46 ツマグロヒヨウモン	トンボ (出現種数 20 個体数 117)	12 ショウリヨウバッタ
11 ウラギンシジミ	47 テングチョウ	1 アオモンイトンボ	13 ショウリヨウバッタモドキ
12 ウラナミシジミ	48 ナガサキアゲハ	2 アキアカネ	14 スズムシ
13 ウラナミジャノメ	49 ニトベエダシャク	3 ウスバキトンボ	15 セスジツユムシ
14 ウンモンズズメ科の仲間	50 ハマキガの仲間	4 オオシオカラトンボ	16 ツチイナゴ
15 オオウンモンクチバ	51 ヒオドシチョウ	5 カワトンボの仲間	17 ツヅレサセコオロギ
16 オオスカシバ	52 ヒカゲチョウ	6 キイトトンボ	18 ツユムシ
17 オオミノガ	53 ヒメアカタテハ	7 ギンヤンマ	19 ヒシバッタ
18 カイコガの仲間	54 ヒメウラナミジャノメ	8 クロスジギンヤンマ	20 ホシササキリ
19 カノコガ	55 ヒメクロイラガ	9 グンバイトンボ	21 マダラスズ
20 キアゲハ	56 ヒメジャノメ	10 コシアキトンボ	22 ヤブキリ
21 キタキチョウ	57 ヒメシロモンドクガ	11 シオカラトンボ	
22 キタテハ	58 ヒロヘリアオイラガ	12 ショウジョウトンボ	
23 キバネセセリ	59 フタトヤリコヤガ	13 チョウトンボ	
24 キマダラセセリ	60 ベニシジミ	14 ナニワトンボ	カマキリ (出現種数 3 個体数 30)
25 クロコノマチョウ	61 ホシホウジャク	15 ハグロトンボ	1 オオカマキリ
26 クロアゲハ	62 ホシミスジ	16 ハラビロトンボ	2 コカマキリ
27 クロヒカゲ	63 ホソオビアシブトクチバ	17 ベニイトトンボ	3 ハラビロカマキリ
28 クロメンガタスズメ	64 ホタルガ	18 マイコアカネ	
29 コジャノメ	65 マツカレハ	19 マユタテアカネ	
30 コスズメ	66 マユアカスカシノメイガ	20 モノサントンボ	
31 ゴマダラチョウ	67 ムラサキイラガ		
32 コミスジ	68 ムラサキシジミ		
33 ジャコウアゲハ	69 モンキチョウ		
34 シャチホコガ	70 モンキアゲハ		
35 シロオビノメイガ	71 モンクロシャチホコ	バッタ・コウロギ (出現種数 22 個対数 107)	
36 シンジュサン	72 モンシロチョウ	1 イボバッタ	
	73 ヤマトシジミ	2 エンマコオロギ	



カメムシ・セミ (出現種数 39 個体数 151)	39	ヨツボシカメムシ	9	クロスズメバチの仲間	16	オオヨモギハムシ	53	ヒメクロオトシブミ	11	コガネグモ
		アブラムシ科の仲間			17	オジロアシナガゾウムシ	54	ヒメマルカツオブシムシ	12	ササグモ
1	アオクサカメムシ	アワフキムシ科の仲間	10	クロマルハナバチ	18	カタジロゴマフカミキリ	55	ヒラタシデムシ	13	ザトウムシ
2	アオバハゴロモ	ツノカメムシ科の仲間	11	コガタスズメバチ	19	カナブン	56	ベニカミキリ	14	サラグモ
3	アブラゼミ	ハエ・アブ(出現種数 23 個体数 108)	12	コマユバチ	20	カブトムシ	57	ベニモンカミキリ	15	ジョロウグモ
4	アメンボ	1 アオメアブ	13	サクツクリバチ	21	キイロテントウ	58	マメコガネ	16	ナガコガネグモ
5	ウシカメムシ	2 アシブトハナアブ	14	ジカバチ	22	キボシカミキリ	59	モモブトカミキリモドキ		ハエトリグモ科の仲間
6	ウズラカメムシ	3 オオハナアブ	15	セイヨウミツバチ	23	キマワリ	60	ヨツボシオオキスイ		
7	エサキモンキツノカメムシ	4 オオイエバエ	16	セグロアシナガバチ	24	キベリマルクビゴミムシ	61	ヨモギハムシ		
8	エビイロカメムシ	5 キイロホソガガソボ	17	チュウレンジバチ	25	クシコメツキ	62	ラミーカミキリ		マキガイ(出現種数 3 個体数 19)
9	エンドウヒゲナガアブラムシ	6 キンバエ	18	トックリバチの仲間	26	クヌギシギゾウムシ	63	ルリカミキリ	1	コギセルの仲間
10	オオバハゴロモ	7 シオヤアブ	19	ドロバチの仲間	27	クロウリハムシ	64	ルリハムシ	2	ヒトスジマイマイの仲間
11	オオホシカメムシ	8 シマハナアブ	20	ニホンミツバチ	28	クロボシツツハムシ	65	ルリゴミムシガマシ	3	ヤマナメクジ
12	オオメカメムシ	9 ショウジョウバエ	21	ハバチ科の仲間	29	クワハムシ		ゴミムシ科の仲間		キセルガイの仲間
13	カイガラムシの仲間	10 トラフムシヒキ	22	ハラナガツチバチ	30	グンバイハムシ				ナメクジの仲間
14	クサギカメムシ	11 ニクエバエの仲間	23	バラハキリバチ	31	コアオハナムグリ				
15	クマゼミ	12 ノイエバエ	24	ヒメハナバチの仲間	32	コガネムシ				甲殻類(出現種数 2 個体数 6)
16	クモヘリカメムシ	13 ハナアブ	25	ヒメハラナガツチバチ	33	コニワハンミョウ				オカダンゴムシ
17	コオイムシ	14 ヒトスジシマカ	26	フタモンアシナガバチ	34	ゴマダラカミキリ		その他の昆虫(出現種数 5 個体数 20)	2	ワラジムシ
18	シマサシガメ	15 ヒメヒラタアブ	27	ベッコウバチ科の仲間	35	ゴミムシダマシ科の仲間	1	キアシハサミムシ		
19	シロオビアワフキ	16 ビロードツリアブ	28	ルリチュウレンジバチ	36	サビキコリ	2	クサカゲロウの仲間		多足類(出現種数 3 個体数 6)
20	ツクツクボウシ	17 ブランコヤドリバエ	29	ヨウロウアシナガバチ	37	シモフリコメツキ	3	ナナフシモドキ	1	ズアカムカデ
21	ツチカメムシ科の仲間	18 マガリケムシヒキ		アシナガバチの仲間	38	シロテンハナムグリ	4	ハサミムシ	2	ズグロムカデ
22	トカゲカメムシ	19 マダラアシナガバエ		オオクロアリの仲間	39	シロホシテントウ	5	モリチャバネゴキブリ	3	ヤステの仲間
23	ナガカメムシ科の仲間	20 ミズアブ		コウチュウ(出現種数 65 個体数 201)	40	ショウカイボンの仲間		ゴキブリの仲間		両性・爬虫類(出現種数 8 個体数 27)
24	ナガメ	21 ミバエの仲間	1	アオカミキリモドキ	41	セマダラコガネ				アオダイショウ
25	ニイニイゼミ	22 ムラサキハネナガミズアブ	2	アオドウガネ	42	センノカミキリ				アマガエル
26	ヌルデシロアブラムシ	23 ヤマトヒゲナガハナアブ	3	アオバネサルハムシ	43	タマムシ	1	アシダカグモ	3	ウシガエル
27	ノコギリカメムシ		4	アオマダラタマムシ	44	テントウムシ	2	アシナガグモ	4	カナヘビ
28	ヒゲナガアブラムシ		5	アカガネサルハムシ	45	ナガチャコガネ	3	アズチゴモ	5	トカゲ
29	ヒメクモヘリカメムシ		6	アカヘリテントウ	46	ナガヒヨウタンゴミムシ	4	アリグモ	6	トノサマガエル
30	ヒメジョウジナガカメムシ	ハチ (出現種数 29 個体数 101)	7	イタドリハムシ	47	ナナホシテントウ	5	イエユウレイグモ属の仲間	7	ヌマガエル
31	ヒメホシカメムシ	1 オオハリハバチ	8	ウバタマコメツキ	48	ノコギリカミキリ	6	オオシロカネグモ	8	ヤモリ
32	ホオツキカメムシ	2 オオスズメバチ	9	ウリハムシ	49	ハナムグリ	7	オナガグモ		その他(出現種数 2 個体数 13)
33	ホシハラビロカメムシ	3 オオフタオビドロバチ	10	ウリハムシモドキ	50	バラルリツツハムシ	8	カニグモ	1	オオミスジコウガイビル
34	ホソヘリカメムシ	4 オオホシオナガバチ	11	オオオサムシ	51	ハンノキハムシ	9	クサグモ	2	ミミズの仲間
35	マルカメムシ	5 キオビツチバチ	12	オオクチブトゾウムシ	52	ヒメアカホシテントウ	10	コアシダカグモ		コウガイビルの仲間
36	ミミズク	6 キンケハラナガツチバチ	13	オオトックリゴミムシ						
37	ミンミンゼミ	7 クマバチ	14	オオヒラタシデムシ						
38	ヨコズナサシガメ	8 クロオオアリ	15	オオヒラタトックリゴミムシ						



写真による豊中の“むし”調べ 2009

調査地区地域区分図

2. 北部地区

グループ	数	グループ	数
チョウ・ガ	109	トンボ	35
バッタ・コロギ*	12	カマキリ	5
カムシ・セミ	28	ハエ・アブ	18
ハチ	17	コウチュウ	26
その他の昆虫	2	クモ	10
マキガイ	3	甲殻類	1
多足類	0	両性・爬虫類	2
その他	2	15(グループ)計	270

地域別個体数

地区	グループ	数	グループ	数
1. 千里地区	チョウ・ガ	180	トンボ	32
	バッタ・コロギ*	39	カマキリ	11
	カムシ・セミ	61	ハエ・アブ	45
	ハチ	34	コウチュウ	89
	その他の昆虫	14	クモ	41
	マキガイ	8	甲殻類	1
	多足類	2	両性・爬虫類	6
	その他	8	15(グループ)計	571
2. 北部地区	チョウ・ガ	34	トンボ	0
	バッタ・コロギ*	63	カマキリ	20
	カムシ・セミ	0	ハエ・アブ	13
	ハチ	6	コウチュウ	9
	その他の昆虫	0	クモ	11
	マキガイ	1	甲殻類	1
	多足類	0	両性・爬虫類	2
	その他	0	15(グループ)計	182
3. 中北部地区	チョウ・ガ	88	トンボ	0
	バッタ・コロギ*	6	カマキリ	27
	カムシ・セミ	13	ハエ・アブ	3
	ハチ	16	コウチュウ	143
	その他の昆虫	0	クモ	0
	マキガイ	1	甲殻類	0
	多足類	0	両性・爬虫類	0
	その他	0	15(グループ)計	0
4. 東部地区	チョウ・ガ	152	トンボ	0
	バッタ・コロギ*	46	カマキリ	27
	カムシ・セミ	47	ハエ・アブ	3
	ハチ	30	コウチュウ	143
	その他の昆虫	4	クモ	0
	マキガイ	5	甲殻類	0
	多足類	4	両性・爬虫類	0
	その他	3	15(グループ)計	485
5. 中西部地区	タ日丘	0	走井	0
	中岩塙	1	東泉丘	328
	南岩塙	0	西泉丘	8
	長興寺北	0	施丘	3
	長興寺南	0	広田町	3
	城山町	0	服部緑地	0
	岡町	0	寺内	0
	岡町北	9	若竹町	0
	岡町南	0	北条町	0
	服部本町	0	小曾根	0
	服部元町	0	浜	0
	服部西町	4	庄内東町	0
	服部豊町	1	庄内西町	0
	服部寿町	2	庄内幸町	0
	原田中	3	庄内宝町	0
	原田元町	0	日之出町	0
	原田南町	0	三国	0
	原田西	2	三和町	0
	曾根東町	0	神外町	0
	曾根西町	4	千成町	0
	曾根南町	36	大島町	0
	利倉東	4	大黒町	0
	利倉西	0	島江町	0
	上津島	0	庄本町	0
	今在家町	0	二葉町	0
	91	名神口	0	
6. 南部地区	福津町	0	0	0
	境横	0	0	0
	野田	0	0	0
	豊南町東	0	0	0
	豊南町西	0	0	0
	豊南町南	0	0	0
	庄内東町	0	0	0
	庄内西町	0	0	0
	庄内幸町	0	0	0
	庄内宝町	0	0	0
	日之出町	0	0	0
	三国	0	0	0
	三和町	0	0	0
	神外町	0	0	0
	千成町	0	0	0
	大島町	0	0	0
	大黒町	0	0	0
	島江町	0	0	0
	庄本町	0	0	0
	二葉町	0	0	0
	名神口	0	0	0
7. 中西部地区	チョウ・ガ	34	トンボ	0
	バッタ・コロギ*	4	カマキリ	3
	カムシ・セミ	2	ハエ・アブ	10
	ハチ	4	コウチュウ	7
	その他の昆虫	0	クモ	2
	マキガイ	2	甲殻類	1
	多足類	0	両性・爬虫類	0
	その他	0	15(グループ)計	70

写真による豊中の“むし”調べ 2009 地域別・グループ別個体数表

調査協力者

荒井道子	伊藤陽一郎	植田久美子	上田峯子	易 信子
易 寿史	大倉信行	岡 恒夫	岡 秀子	柿本修一
片岡正道	木村文麿	桑島いつ枝	桑島淳二	高妻 敦
斎藤 明	佐々木忠弘	笹部司郎	佐藤藤子	新開悦子
鈴木美鈴	土田泰子	樋上裕一	松田和重	松田花奈
松谷キミ子	真野隆夫	馬渥康子	三宅史郎	宮田 健
社ひとみ	山口 壽	山本靖彦	吉見清之	渡部美紀

(敬称略)

本事業は豊中市の委託を受けています。

NPO 法人 とよなか市民環境会議アジェンダ 21 自然部会
〒561-0804 豊中市曾根南町 1-4-3 環境情報サロン内
TEL : 6863-8792 FAX : 6863-8734
e-mail : ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp
ホームページ : <http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>